

2024年度（令和6年度）事業計画書

児童養護施設 山家学園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- ① 施設入所事業 定員 24名
- ② 子育て支援短期利用事業 定員 6名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

- ① 由布市要支援児童等見守り強化事業
- ② 由布市ファミリーサポートセンター事業

(3) 地域における公益的な取組

- ① 神社清掃活動
- ② 地域住民としての区の活動

(4) 運営方針

家庭養育優先原則の中においても、児童養護施設として、施設での養育を必要とする子どもの養育に関し、できる限り良好な家庭的環境で、高機能化された養育や保護者等への支援及び里親や在宅家庭への支援等多機能化を図ることにより、更に専門性を高めていきます。虐待件数の増加の中入所する子どもの権利擁護のため、日常的な支援体制のチェック機能を果たすこと、また、子どもアドボケイトの積極的導入により、子どもの意見・意向表明の支援を行います。加えて施設出身者の継続的なアフターケアについて、関係機関と連携し実践していきます。さらに、専門性を活かした地域の子育て支援の拠点となることを目標として、自治体や地域と連携し、地域の支援を必要とする子どもの見守りや家族の支援体制を広げていきます。その一環としての子育て短期支援事業の取り組みとして、個々のニーズに沿った支援体制を構築し、利用件数を増加させること、また、内外の研修の積極的参加など自己研鑽に取り組むことによる支援スキルの向上をもって、重篤な背景を持ち支援に専門性が求められる子どもの入所をも受け入れるなど、高機能化・多機能化の取り組みを進めていきます。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	各種休日の取得しやすい労働環境
現状と課題	年次有給休暇の計画的取得は、可能となってきたが、自主的な取得計画や申出は出来ていない。
取組の方向性	相互に声かけし、自主的に、個々の生活スタイルに合った休暇の取得をしやすい環境づくりを行う。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	園内研修の充実
現状と課題	研修委員を中心に園内研修の年間計画を立て、毎月様々なテーマの研修を実施している。
取組の方向性	職員一人ひとりが学びたいテーマを積極的に持ち寄り、充実した園内研修を継続することで、職員の育成と支援の質の向上に繋げる。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	互いに助け合い高め合う風土づくり
現状と課題	自身の業務遂行に意識が偏り、全体の業務を共有して効率的に進める事ができていない。
取組の方向性	常に情報交換を行い、業務内容を共有することで、互いに助け合い、全体の業務を効率的に質の高いものにしていく。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	効率的に業務遂行し、個々の生活に沿った各種休暇の取得を推進する。
現状と課題	業務の優先順位の組み立てや時間配分について、計画に曖昧な面が多く見られることにより、休暇取得を計画する余裕がもてない傾向にある。
取組の方向性	勤務時間の時間配分について、日・月・季節・年毎の計画を個々で行い協力体制も作ることで効率的な業務に取り組み、個々の生活に沿った休暇の取得を躊躇なく行える周囲のフォロー体制も構築して

	いく。
--	-----

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	子どもの権利擁護と意見・意向表明支援の充実
現状と課題	子ども一人ひとりと向き合う支援体制と関係性の構築を意識して支援している。意見・意向表明支援として、子どもアドボケイトの受け入れを行っている。
取組の方向性	児童一人ひとりとの関係性をより深く築くことを大切に支援し、子どもの意見・意向表明支援として、子どもアドボケイトの積極的受け入れと連携を深め、支援の充実を図る。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	法人内施設間協力のもとでの防災・防犯対策
現状と課題	法人内施設間の防災組織体制について、途上の段階である。
取組の方向性	法人内既存の防災組織を参考として取り組み組織を具体的に作り上げていく。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域の子育て支援の拠点を目指す
現状と課題	由布市の受託にて要支援児童等見守り強化事業及びファミリーサポートセンター事業を実施している。
取組の方向性	由布市こども家庭支援センターと連携し、地域の子育て支援の拠点としての役割を担う。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	入所定員を満たすこと、また、ショートステイ利用拡充を行う。
現状と課題	現時点で入所定員を満たしている状態であるが、18歳年齢での退所と家庭復帰等による減員が予測されること、また、ショートステイの受け入れ体制に

	工夫の余地がある。
取組の方向性	入所児童を確保すること、また、ショートステイ棟を活用し、個々のニーズに沿った受け入れ体制の構築により、利用件数を伸ばす。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	施設整備について見通しを立てて進めていく。
現状と課題	施設外周の整備や収納スペースなど、整備途上にある。
取組の方向性	児童の生活環境を整えるための施設整備について、見通しを立てて計画し、それに伴う収入確保のため、入所児童及びショートステイ利用者の確保を進め、収支のバランスを追求していく。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	事業計画に対する目標設定
現状と課題	限られた人員の中で目標達成のために組織としてどのように動くべきか、一丸となる意識が不足している。
取組の方向性	限られた人員の中で満足の得られる支援体制をつくることやショートステイの受け入れ、また、地域の子育て支援などの多機能化の取り組みに対して、個々の目標をもって進めていく。

3 目標利用率

事業名	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設入所事業	24	22	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23.8
子育て支援短期利用事業	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	執行見込額
倉庫（物置）	500

5 修繕計画（大規模修繕を除く）

(単位：千円)

名 称	執行見込額
外周排水擁壁工事	2,000
グラウンド補修工事	1,000

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	執行見込額